



佐農高だより

～ 汗をかき 人と和して 己を磨く ～

令和5年度 第12号(令和6年3月発行)

佐賀県立佐賀農業高等学校 校長 外戸口 良文

佐賀県杵島郡白石町大字福田 1660

TEL 0952-84-2611 FAX 0952-71-5009

<http://www.education.saga-ed.jp/hp/saganougyoukoukou/>



暖かい風、次々に咲く花。もうすっかり春です。この学年も残り数日となりましたが、皆さん、満足していますか。日々、学びや成長があり、心も体も一年前とは違う自分になっているはずです。先輩方から手渡された歴史と伝統を、一人一人が毎日一生懸命学び、向上を目指す姿勢によって後輩へと伝えていきましょう。春のスタートは目前です。新たな気持ちでスタートラインに立ちましょう。

卒業式

3月1日(金)は卒業証書授与式が行われ、卒業生115名が巣立っていきました。卒業生銘々に卒業証書が授与された後、式辞で外戸口良文校長先生は、これからの時代を生きるために大切なこととして、「やるべきことに精一杯努力してほしい。あらゆるものから学び、知識・技術・経験を積み上げ、夢や目標を実現してください」、「感謝の心を忘れないでほしい」、また「世界の情勢に目を向けて、人の痛みに寄り添い、人と人の絆、繋がりを大切にすることを忘れずにいてほしい」と卒業生を熱く鼓舞されました。



卒業証書授与



答辞

また国本会副会頭 門田芳彦氏から、「明日からは社会人として、常に『農は国の本なり』の国本会精神を忘れず、佐賀農業高校の卒業生、国本会会員の一人としての誇りと志を高く持ち、常に誠実と勤勉を心がけ、活躍されるよう念願しております。」と心のこもったご祝辞をいただきました。

続いての送辞では、在校生を代表して農業クラブ会長の釘本陸人さん(環境工学科2年・福富中)が、「私たち在校生は、この歴史ある佐賀農業高校の伝統のたすきを引き継ぎます。私たちも先輩方に負けられないような強い意志を持って、何事にも手を抜かず、一生懸命努力していきます」と述べ、それを受けての答辞では三原丞太郎さん(環境工学科3年・鹿島東部中)が「充実した学校生活を送れたのは、親身になってご指導くださった担任の先生をはじめ、あらゆる場面で導いてくださった先生方のおかげだと心から感謝しています。そして、温かく見守ってくれた家族がいたからです。」「どんな大きな壁にぶつかったとしても、そのときには、遠く離れていても見守ってくださる皆さんの存在を心の支えにし、皆さんから教えていただいたことを忘れずに、困難に立ち向かっていきたいと思います。そして、私自身もこれから出会う人たちを支えられる存在になっていきたいと思います。」とこれまでの学校生活を振り返っての感謝の気持ちとこれから未来へ向けての決意を力強く述べました。



送辞

式の前日は生徒会の企画による卒業生を送る会が催されました。各部活動の下級生からのメッセージ、様々な思い出の場面がスクリーンに映し出され、最後には1、2年生が3年生を取り囲んで歌いました。混声合唱『正解』。体育館に響く歌声は力強く、先輩に贈る真心のこもった歌でした。そしてその日の放課後は、3年生の教室や昇降口を飾り付け、翌日の晴れの日のために遅くまで準備をしました。

2月後半は雨の日が多く、それまでのいかにも春という日差しが消え、冬が戻ってきていましたが、卒業式の日には曇りがちながらも天気にも恵まれ、3年生は晴れやかな顔で卒業していきました。



美術部による黒板絵画

林業教室(環境工学科2年)



昨年12月6日(水)、環境工学科環境デザインコースの2年生10名は、佐賀南部林政協議会主催の「林業教室」で林業について学習しました。林業について漠然としたイメージを抱いているだけで、具体的なことを知る機会のなかった生徒たちにとって、現在の森林環境や林業の魅力を知る貴重な講座でした。実際に鹿島市にある県保有林で間伐材の伐採・搬出を見学し、実際にチェー

ンソーを扱っての伐倒も体験しました。また焚火をおこしてバーベキューをごちそうくださり、生徒たちは大いに喜んで、雪がちらつく中ごちそうを頬張りました。

「林業はとても重労働だと思っていましたが、実際に体験をすると、大型機械を使い、チェーンソーなどをうまく活用して、そこまできつくない仕事だと感じました。チェーンソーは意外に重くてビックリしました。丸太を切っているとき、とても気持ちよかったです。」「寒い中で食べた豚バラとウインナーはとてもおいしかったです。転職で入ってくる人も多いそうなので、第2の仕事としてありなのかなと思いました。」「私の林業に対する考えが180度変わりました。」「今回林業という仕事地球にとって大事な仕事だと知り、とても関心がわきました。現場も雰囲気が明るく楽しそうでした。」「地球を守るために一生懸命にお仕事を頑張っておられる姿を見て、カッコいいなあと思いました。」「寒い中で食べる肉やソーセージは格別でした。」「林業は、単純に見えて、実際は森林環境を保つほかに、新たに森林を作ったり、荒れた森林を直したり、植林したりと複雑で難しい仕事だとわかりました。」「お土産でいただいたまな板は大切に使っていこうと思います。」「自然が好きで、植物に興味のある人にはとても良い仕事だなと思いました。」



外部講師による製菓実習（食品科学科）

食品科学科ではこの3学期、外部講師をお招きして製菓実習を行いました。鳥栖市にある洋菓子店「ブルーシャ」のパティシエ青野光治氏のご指導の下、2年生は1月にチョコムースカップケーキ、1年生は2月にフォンダンショコラの作り方を学び、3月には1年生が、西九州調理製菓専門学校の松雪容子氏からご指導を受けシュークリームを製作しました。「先生が丁寧に教えてくださったのでよくわかりました。チョコがダマにならないように気をつけました。（チョコムースカップケーキ）」「機械を使わずに生地を混ぜるのが大変でした。コツがまだわからず、きれいに膨らまなくて残念でした。（シュークリーム）」



進路ガイダンス

3学期に入り、1・2年生を対象にした進路ガイダンスが2回行われました。1月26日（金）には、各科に4社、計12社の企業による企業説明会、3月15日（金）は専門学校・企業の方々を講師として迎え、看護、栄養、土木・建築、自動車、農業・園芸など22分野にわたる体験型講座が行われ、それぞれ希望する分野の講座に参加しました。

さあ、2年生はいよいよ本当に、掛け値なしで真剣に考える時が来ましたよ。

企業説明会「求人票を見るだけではわからない、企業の雰囲気を知ることができいい機会だった。」「各企業の仕事や製品が私たちの生活の中で活躍していて、とても身近に感じました。」「詳しい話を聞いて、想像とは違う仕事だったりして驚きました。」「それぞれ分野は違うけれど、求める人材は自ら考え行動する人なのだとわかりました。」「社員の皆さんの仲が良さそうでいいなと思いました。社員旅行が楽しそうでした。」「インドにまで工場がありびっくりしました。」「コミュニケーションとか第一印象は、今から見直す必要があると思った。」「挨拶は自分ではできていると思っていても、相手に伝わらないと意味がないため、元気に大げさに行うことが大切だということがわかりました。」「『思うことは誰にでもできるけれど、それを行動におこすことはなかなかできない。』確かにそう思いました。」

体験型説明会「実際に面接を受けて、『せっかちすぎる。一つ一つの動きを丁寧に。』とアドバイスをいただきました。」「公務員の講座では、学校では聞かないことを教えてもらえました。」「明太フランスとガーリックフランスを作って楽しかったです。」「お辞儀の角度が15度、30度、45度とあって、場面によって使い分けることを教わりました。」



4月行事予定

8日（月）新任式 始業式 服装頭髪指導	11日（木）対面式 基礎力診断テスト 身体測定
9日（火）学年集会 入学式準備	12日（金）基礎力診断テスト 学科集会
10日（水）入学式 生産物販売	17日（水）一斉面談（23日まで）

編集後記 卒業式で生徒が泣く姿を久しぶりに見ました。就職する人にとっては、学校はこれでおしまい。もう働くんだと思うと泣けてきます。大学の卒業式では周りの人と肩を組んで校歌を歌い、とめどなく涙を流しました。もう仲間にもめったに会うことはなくなる、と名残を惜しんだ気持ちが蘇りました。K